

世界的オーボエ奏者&ハープ奏者で奏でる心温まるデュオ

シエレンベルガー アナ・シュース (ハープ) (オーボエ) &



デュオ・コンサート

Hansjörg Schellenberger
& Margit-Anna Süß
Duo Concert

C.P.E バッハ：ソナタ短調 Wq.135

C.P.E.Bach: Sonata in g-minor Wq.135 for oboe and harp (オーボエとハープ編)

J.S. バッハ：無伴奏フルートのためのパルティータ イ短調 BWV 1013

J.S.Bach: Partita in g-minor BWV 1013 for oboe solo (オーボエ編)

ルイ・シュポーア：幻想曲 ハ短調 op.35

Louis Spohr: Fantasie c-minor op.35 for harp solo (ハープ・ソロ)

J.S. バッハ：ソナタ ハ長調 BWV 1033

J.S.Bach: Sonata in C-Major BWV 1033 for oboe and harp (オーボエとハープ編)

サン＝サーンス：オーボエ・ソナタ ニ長調 op.166

C.Saint-Saens: Sonata in D-Major op.166 for oboe and harp (オーボエとハープ編)

B.ブリテン：オウィディウスによる6つのメタモルフォーゼ op.49

B.Britten: 6 metamorphoses after Ovid op.49 for Oboe solo (オーボエ・ソロ)

フォーレ：即興曲 変ニ長調 op.86

Gabriel.Faure: Imprumptu in D-flat-Major op.86 for harp Solo (ハープ・ソロ)

A.パスクリ：ベッリーニへのオマージュ

Antonino Pasculli: Ommagio a Bellini for cor anglais and harp (コーラングレとハープ編)

2024 **2/3** [土] 14:00 開演(13:30開場) **京都コンサートホール**
アンサンブルホールムラタ

全席指定：一般 5,000円／会員* 4,500円

*会員：京都コンサートホール・ロームシアター京都Club(年会費1,000円)と京響友の会の会員が対象。

会員先行：10/7(土)10:00～

一般発売：10/14(土)10:00～

※出演者、曲目は都合により変更になる場合がございます。※やむを得ない事情により公演が不可能になった場合は、当該公演であらかじめ定めた入場料金を返金いたします。※公演中止以外の出演者、曲目等の変更による払戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。※お支払い後のキャンセルや座席の変更はお受けできません。※未就学児の入場はご遠慮ください。※チケットの転売は固くお断りいたします。万が一そのような行為が頻繁に見受けられた場合、転売席のチケットをお持ちのお客様にご本人確認を行い、ご入場をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

●チケットのご予約・お問合せ

京都コンサートホール 075-711-3231

※10:00～17:00/第1・第3月曜日休館(休日の場合は翌平日)

●24時間いつでも!

オンラインチケット購入 **京都コンサートホール** 検索

●プレイガイド

e+(イープラス) eplus.jp

ロームシアター京都 075-746-3201(10:00～17:00 年中無休[臨時休館日等により変更の場合あり])

偉大な指揮者カラヤン、アバド時代のベルリン・フィルを
首席オーボエ奏者として支えた名手。その名声は未だに語り継がれているシェレンベルガーと、
彼の夫人であり国際的ハーピストとして名高いシュースによるデュオが実現します。
息の合ったアンサンブルはさすがで、バッハからブリテンに至る魅力的なプログラムは
聴衆を豊かな心持にしてくれることは間違いありません。



©Gerhard Winkler

ハンスイェルク・シェレンベルガー(オーボエ)

Hansjörg Schellenberger, oboe

1948年生まれ。大変な音楽好きの両親の元で育ち、早くから音楽に強い興味を持った。13歳からオーボエを始め、その後、ミュンヘンとデトモルトにおいてオーボエ、指揮法、そして数学を勉強。ミュンヘンのARDコンクール(1972)を含む主要な音楽コンクールで入賞後、1971年にケルン放響のオーボエ奏者となり、1975年から1980年まで同団のソロ・オーボエ奏者を務める。1977年からカラヤン指揮ベルリン・フィルにエキストラとして参加するようになり、1980年1月から2001年夏までベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者を務める。退団後は、指揮者、ソリストの仕事を中心に活躍している。

これまでにソリストとして、カラヤン、ジュリーニ、アッパード、ムーティ、レヴァインなどの著名な指揮者と共演。室内楽奏者としては、アンサンブル・ウィーン=ベルリンを中心に多彩な活動を展開。また、1991年にはハイドン・アンサンブル・ベルリンを設立、芸術監督を務めた。

1994年から本格的な指揮活動を開始、これまでにザールブリュッケン・カイザースラウテルン・ドイツ放送フィル、カメラータ・ザルツブルク、エルサレム交響楽団、ムニシパッド・マドリッド管弦楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ管弦楽団、ローマ・サンタチェチーリア管弦楽団、NHK交響楽団、日本フィル、東京フィル、読響、名古屋フィル、京響、関西フィル、札幌響、岡山フィル、兵庫芸術文化センター管などを指揮している。2012年、2016年には、カメラータ・ザルツブルクを率いて日本ツアーを行い絶賛された。2013年度から2023年3月末まで岡山フィルの首席指揮者、2021/22シーズンよりベルリン交響楽団の首席指揮者に就任した。マドリッドのソフィア高等音楽院で教授、また、3年に1回開かれる国際オーボエコンクール・東京の審査委員長を1994年より務めている。

CDの録音は50枚以上にのぼり、ドイツ・グラモフォン、デンオン、ソニー・クラシカル、オルフェオといったレーベルからリリースされている。1997年からは、妻とともに自身のCDレーベル“カンパネラ・ムジカ”を設立し、ベルリン・フィルの仲間たちにも参加してもらい、多くの録音をリリースしている。



マルギット=アナ・シュース(ハープ)

Margit-Anna Süss, harp

マルギット=アナ・シュースは、ソリスト・室内楽奏者そして教育者として、国際的に活躍している。フランクフルター・アルゲマイネ紙では「当初から彼女の演奏はエレガントで、その旋律性は明確であり、洗練されたダイナミクスを感じさせていた」、南ドイツ新聞では「彼女は完全に習熟した技術をもって演奏する」と評される。

特筆すべきはシュースが伝説的な仏ハーピスト ビエール・ジャメ(1893-1991)に2年間師事したことであろう。ジャメはかつてラヴェルやドビュッシーと一緒に仕事をおり、実際ドビュッシーの作品に寄与したことも知られている。

20歳のとき、自らの意思でオーディションを受けるためハンブルグに赴き、その場でNDRエルプフィルハーモニー管弦楽団の首席ハーピストとして迎えられた。また、ホルスト・シュタインに誘われ、バンベルグ響の東南アジアツアーに参加。その後も同響のゲスト・ハーピストを務めたほか、カラヤン、アバド、ラトルらが指揮するベルリン・フィルに10年以上にわたりゲストとして招かれた。

ドイツ・グラモフォンから発売されたアンサンブル・ウィーン=ベルリン、仏女優カトリーヌ・ドヌーヴとともにフランス印象派作曲家の作品を録音したCD「ピリティスの歌」がGrand Prix du Disqueを獲得。最近では、シューベルトのピアノ曲「4つの即興曲」をハープで演奏したCDを発表。Intermediate string-stopping奏法を用いながら、ピアノ曲として名高いこの作品を見事にハープで演奏し、高い評価を得た。また世界各地でマスタークラスを開催。その中にはヘルシンキ、マンチェスター、サンクトペテルブルク、東京なども含まれている。2017年からはグラーツ国立音楽大学で教授を務めている。

長年取り組んできたドビュッシーの「神聖な舞曲と世俗的な舞曲」を収録、2022年秋にG.Henle Verlagより発売された。シュースは同作品をオリジナルスコアに忠実に演奏しており、原点回帰を果たした。